

# 取扱説明書

## U-D03 / U-SD03 / U-MDOB3 / U-MDO10R3 ディスクッション装置

2,5,9,10,13人用

**お願い**

この製品の性能を十分に発揮させるため、および安全を確保するため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みいただき、ご使用時には常に関連できる状態にしてください。  
このシステムの構成に含まれる製品については、6～9ページをご参照ください。

光学顕微鏡アクセサリ



# 目次

はじめに .....	1
安全に関するお願い .....	2
1 各ディスカッションシステムの構成と観察像の向き .....	4
2 各部の名称と機能 .....	6
3 使い方 .....	10
3-1 迷光防止カバーの使い方 .....	10
3-2 視度調整 .....	10
1 主検鏡者の視度調整 .....	10
2 副検鏡者の視度調整 .....	11
3-3 ポインターの使い方 .....	12
1 ポインターの明るさ調整 .....	12
2 ポインターの色選択 .....	12
3 ポインターの移動 .....	12
3-4 画像取り込み時のご注意 .....	13
4 仕様 .....	14
5 組み立て方 .....	15
5-1 対向型 2 人用システムの場合 .....	15
1 ディスカッション鏡筒本体部の取り付け .....	15
5-2 並列型 2 人用システム、5 人用システムの場合 .....	16
1 ディスカッション鏡筒本体部の取り付け .....	16
2 スタンドの取り付け .....	17
3 側視部の取り付け .....	18
4 鏡筒の取り付け .....	18
5 接眼レンズの取り付け .....	19
6 スタンドの高さの調整 .....	20

5-3	9 人用システムの場合	21
1	U-MDOB3 の取り付け	21
2	スタンドの取り付け	21
3	U-MDOSV の取り付け	21
4	BX3-MDOE の取り付け	22
5	スタンドの取り付け	22
6	U-MDOSV の取り付け	23
7	鏡筒の取り付け	23
8	接眼レンズの取り付け	24
9	スタンドの高さの調整	24
5-4	10 人用システムの場合	25
1	スタンドの取り付け	25
2	U-MDO10R3 の取り付け	25
3	光路分割ユニットの取り付け	26
4	U-MDO10B3 の取り付け	26
5	スタンドの取り付け	26
6	U-MDOSV の取り付け	26
7	鏡筒の取り付け	27
8	接眼レンズの取り付け	27
9	スタンドの高さの調整	27
5-5	13 人用システムへの拡張について	28
5-6	その他の取り付け	29
1	AC アダプターの取り付け	29
2	コード止めの設置	30
3	遮熱板 ( オプション ) の取り付け	30

## はじめに

この装置は、BX3シリーズの顕微鏡と組み合わせて使用するディスカッション装置です。  
一緒に使用する接眼レンズ、対物レンズ、コンデンサーなどは、UIS2(またはUIS)光学系シリーズをご使用  
ください。

### 取扱説明書について

本書はディスカッション装置の取扱説明書です。顕微鏡の取扱説明書も併せてご確認ください。

## 安全に関するお願い

この製品を取扱説明書に記載している以外の方法で使用すると、安全が保証できず、さらに故障のおそれがあります。この取扱説明書に従ってご使用ください。

この取扱説明書の中では以下のシンボルを使用しています。

**⚠ 注意** : これを守らないと軽傷または中程度の傷害につながる可能性のある事柄を示します。

**注記** : これを守らないと、製品やその他の財産の破損や、問題につながる可能性のある事柄を示しています。

**参考** : 使用にあたっての有効な知識、情報などの内容を示します。

### ⚠ 注意 - 製品の設置 -

#### 製品を丈夫で、かつ水平な机に設置する。

このシステムでは、複数の机を並べて製品を設置します。すべての机は、丈夫で、かつ水平なものをご使用ください。また、机がずれないように固定するなどの適切な処置をしてください。

### ⚠ 注意 - 電気安全 -

#### 電源コードは当社提供のものを必ず使用する。

正しいACアダプターおよび電源コードを使用しないと製品の電気安全およびEMC（Electro-Magnetic Compatibility = 電磁両立性）性能を保証できません。

#### 製品のアースをとる。

電源コードのアース端子と、電源コンセントのアース端子を接続してください。製品のアースがとられていないと当社の意図する電気安全およびEMC性能を保証できません。

#### 強い電磁放射源の間近で製品を使用しない。

適正な動作が妨げられることがあります。製品をご使用になる前に電磁環境の評価を行ってください。

#### 緊急時には電源コードを抜く。

緊急時には、電源コードをコネクタ部または電源コンセントから取り外してください。製品は、電源コードコネクタ部または電源コンセントに手が届いて、電源コードをすぐ取り外せる位置に設置してください。

#### 通電時は、電源コードやケーブルの抜き差しやユニットの着脱をしない。

### ⚠ 注意 - 感電防止 -

#### 電源コードおよびケーブル類はランプハウスから充分離す。

電源コードおよびケーブル類がランプハウスの高温部に触れると、コードが溶け、感電するおそれがあります。

#### 濡れた手で製品に触れない。

特に、濡れた手で電源のメインスイッチや電源コードに触れると、感電や発火、製品の故障の原因になります。

## ⚠ 注意 - 安全に関するシンボルマーク -

この製品には以下のシンボルマークが付いています。  
マークの意味をご理解いただき、安全な取り扱いを行ってください。

マーク	意味
15V0.2A 	直流電源(付属のACアダプター)を使用してください。
	入力ジャックの意味
	ポインターの意味

## ご使用にあたって

**注記** ・この製品は精密機器です。衝撃を与えないよう、ていねいに扱ってください。

・製品各部を分解することは故障の原因となるので絶対に行わないでください。

・直射日光・高温多湿・ほこり・振動のある場所での製品の使用は避けてください。  
(使用環境条件は「4 仕様」(14ページ)をご参照ください。)

- 1) この装置に超広視野接眼レンズを組み合わせた場合、ポインターは視野の全範囲には移動できません。またポインターのゴーストが発生することがあります。
- 2) 接眼レンズにマイクロメーターが入っているときは、ポインターのゴーストが発生することがあります。
- 3) 迷光を防止するために
  - ・使用しない副検鏡者の接眼レンズには、付属の迷光防止カバー(P.10、P.13)をかぶせてください。
  - ・使用しない鏡筒取り付け座や側視部の取り付け部には、キャップを取り付けてください。
- 4) 使用後は、安全のためACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 5) ACアダプターのコードは、付属のコード止め(P.30)を使って、検鏡の邪魔にならない位置にセットし、さらにランプハウスに触れないようご注意ください。
- 6) 落射投光管を組み合わせる場合は、これらのディスカッション鏡筒を組み合わせることはできません。

## お手入れ、保管について

- 1) レンズおよびフィルター類には、汚れや指紋等をつけないでください。汚れた場合には、ほこりを市販のブロアーなどで吹き飛ばし、クリーニングペーパー(または洗いざらしの清潔なガーゼ)で軽く拭く程度にしてください。  
指紋や油脂類の汚れのみ市販の無水アルコールをクリーニングペーパーにわずかに含ませて拭き取ってください。

**⚠ 注意** 無水アルコールは引火性が強いので取り扱いにご注意ください。火気や電氣的火花の発生源となるものに近づけないでください。例えば、電気機器のスイッチのON/OFFは発火の原因となることがあります。また、無水アルコールは必ず換気の良い部屋でご使用ください。

- 2) レンズ以外の各部は、やわらかい布で乾拭きしてください。乾拭きでは汚れが取れない部分は、稀釈した中性洗剤をやわらかい布に含ませて拭いてください。

**注記** 有機溶剤は、塗装やプラスチック部品を劣化させますので、使用しないでください。

- 3) この製品の使用後は、顕微鏡のメインスイッチを○(OFF)にして、ランプハウスが十分に冷えるのを待ち、ダストカバーをかけて保管してください。
- 4) この製品を廃棄する際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。ご不明な点は、当社の販売店にお問い合わせください。

# 1 各ディスカッションシステムの構成と観察像の向き

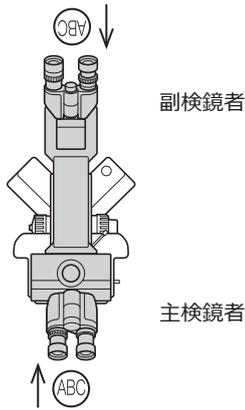
以下のイラストは、ディスカッションシステムを上から見た状態になります。

↓ は、検鏡者の視線の向きを表現しています。

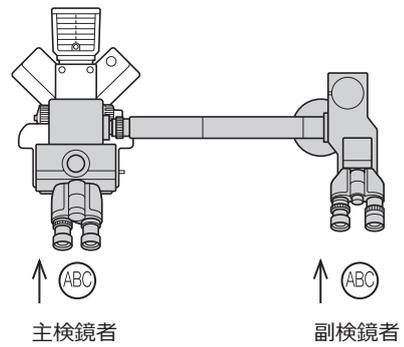
⊙(ABC) は、各接眼レンズで観察したときの像の向きを表現しています。

参考 ⊙ イラストの向きに鏡筒を取り付けない場合には、像の向きが回転します。

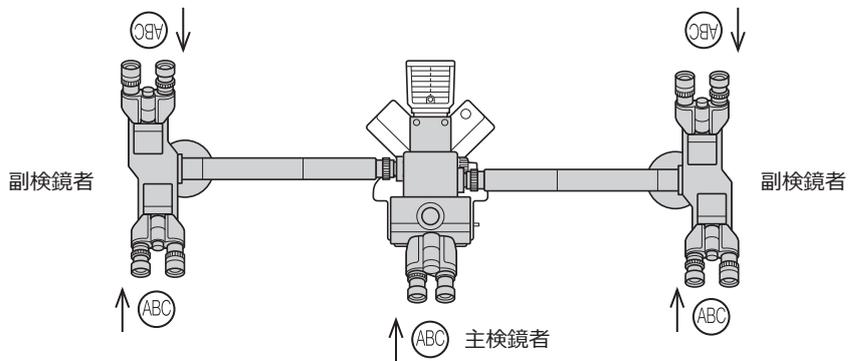
対向型2人用システム



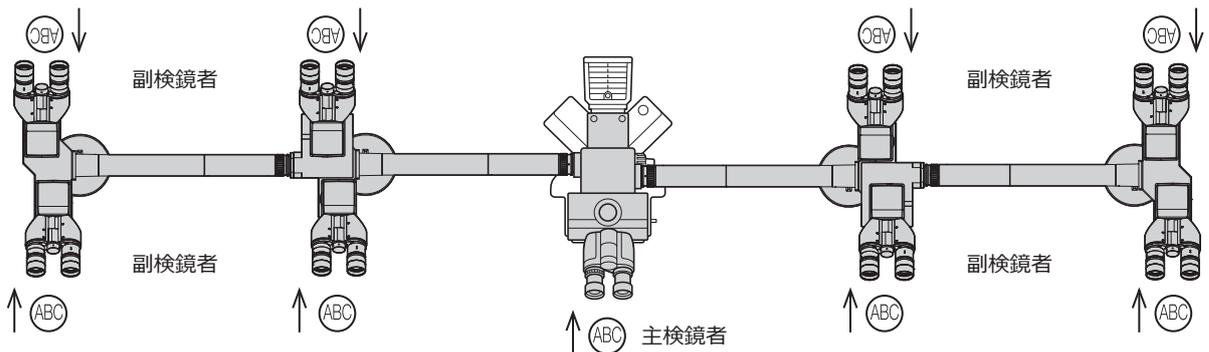
並列型2人用システム



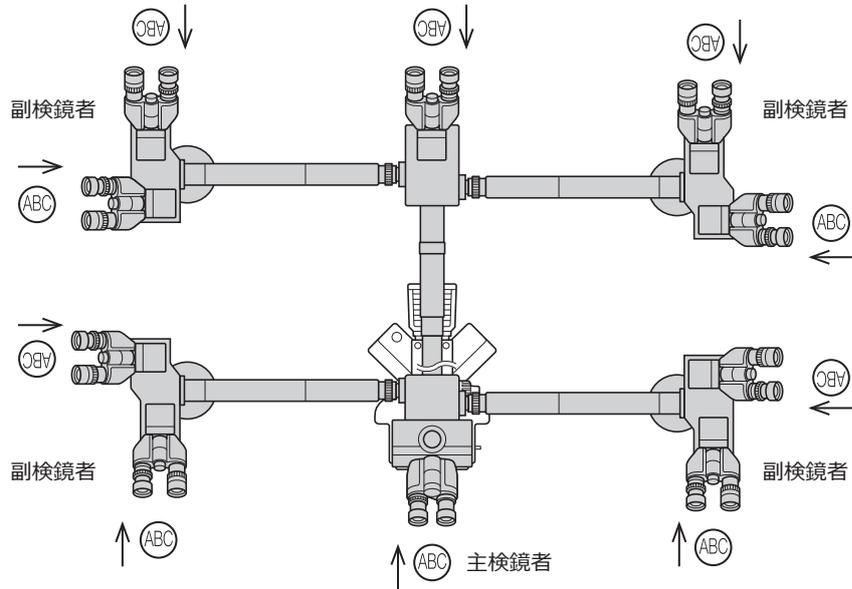
5人用システム



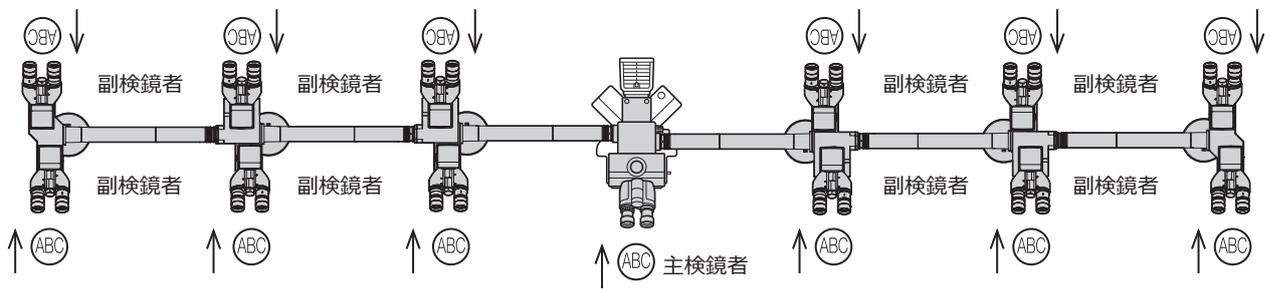
9人用システム



10人用  
システム

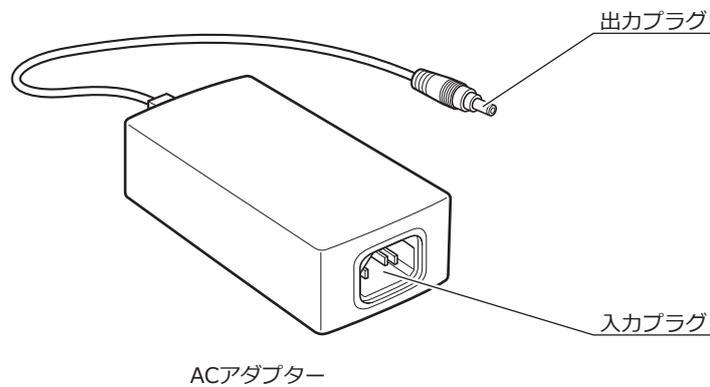
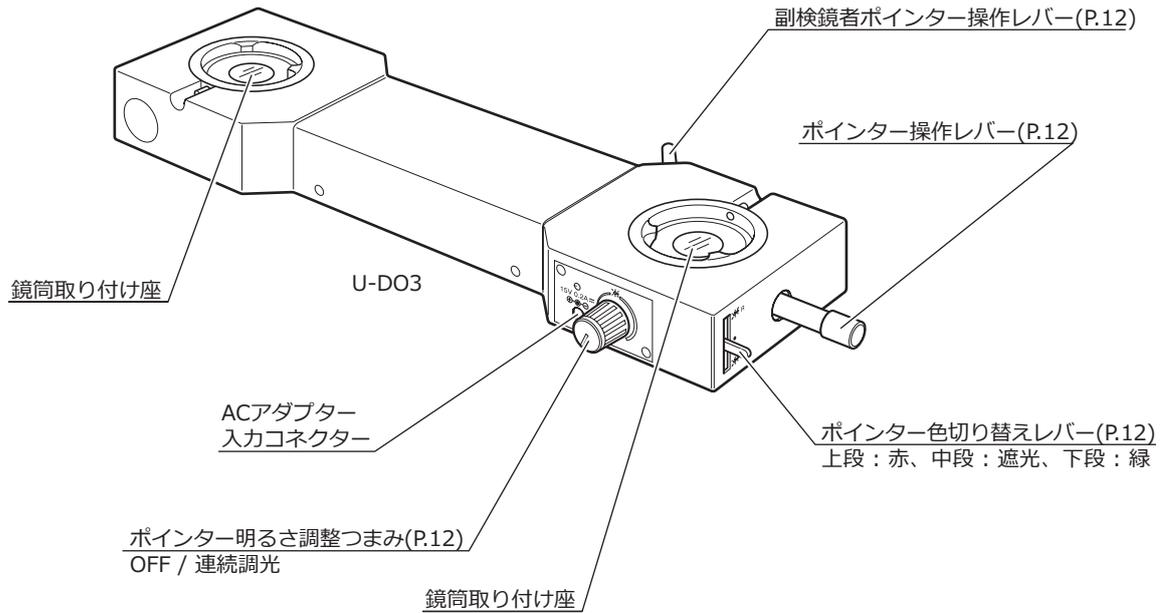


13人用  
システム



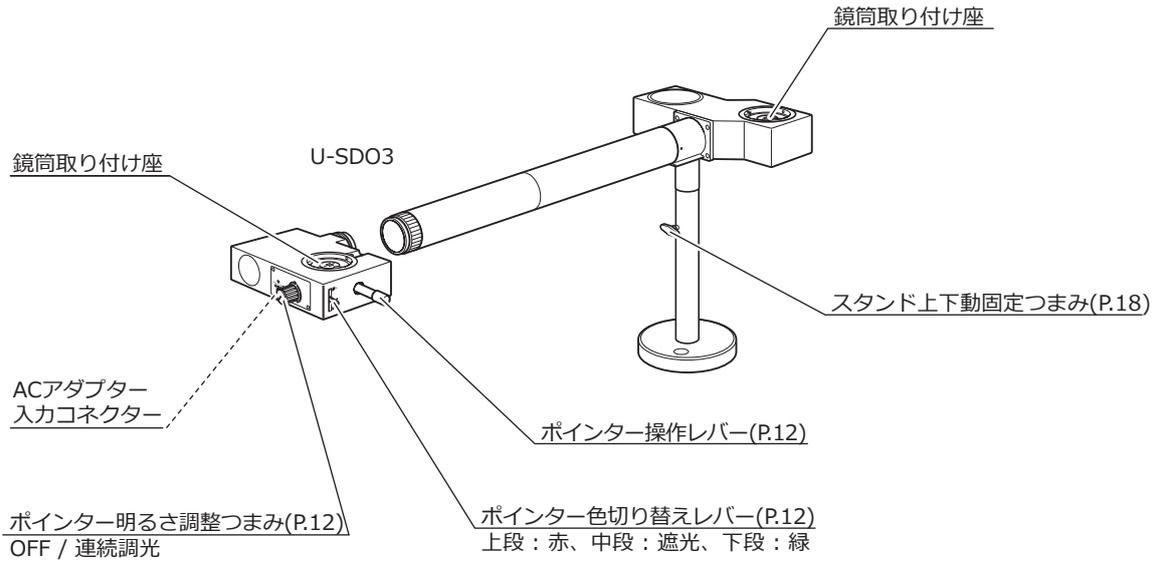
## 2 各部の名称と機能

対向型2人用  
システム



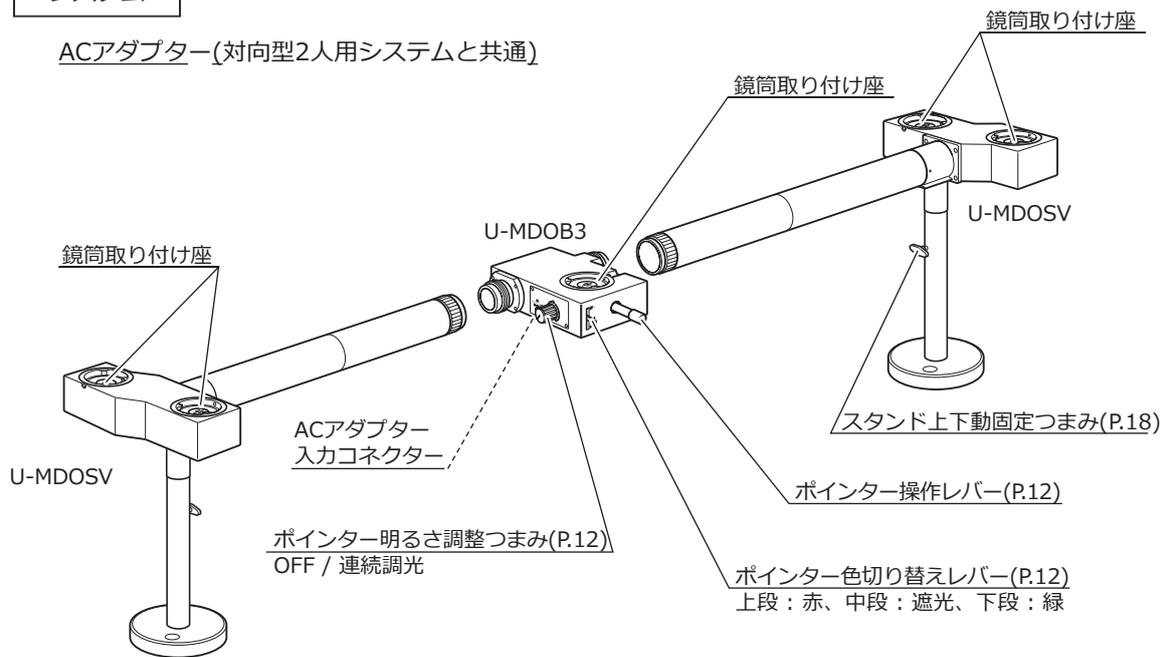
並列型2人用  
システム

ACアダプター(対向型2人用システムと共通)



5人用  
システム

ACアダプター(対向型2人用システムと共通)

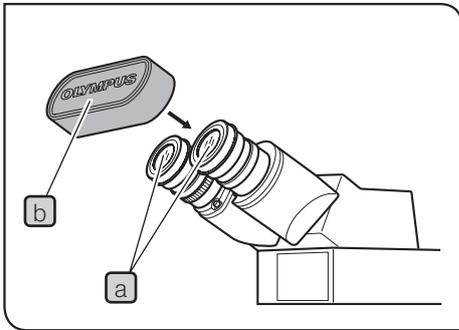






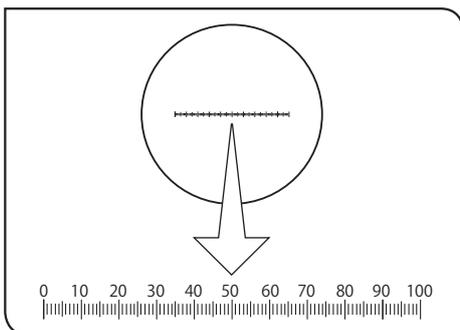
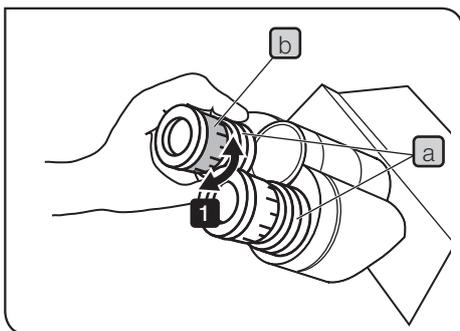
# 3 使い方

## 3-1 迷光防止カバーの使い方



- 1 使用しない副検鏡者の接眼レンズ**a**には、付属の迷光防止カバー**b**をかぶせます。

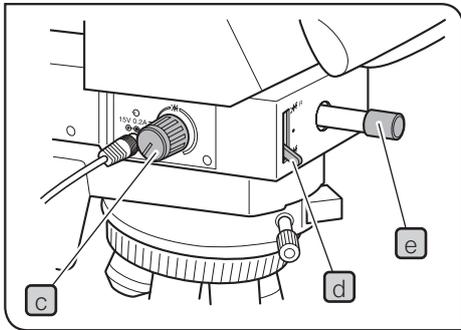
## 3-2 視度調整



### 1 主検鏡者の視度調整

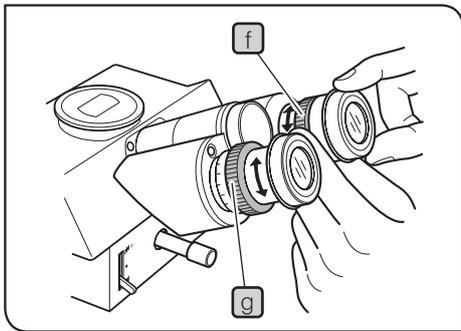
接眼マイクロメーターが接眼レンズに入っている場合

- 1 接眼マイクロメーターが入っている接眼レンズをのぞきながら、視野内の接眼マイクロメーターの目盛りや線がはっきり見えるように、視度調整環**b**を回して調整します。視度調整環**b**を回す際は、接眼レンズの下部**a**を押さえながら回してください。
- 2 標本をセットします。
- 3 10×対物レンズを光路に入れて、接眼マイクロメーターが入っている接眼レンズをのぞきながら、粗動/微動ハンドルを回して標本にピントを合わせます。
- 4 接眼マイクロメーターの入っていない接眼レンズの視度調整環**b**を回して標本にピントを合わせます。



接眼マイクロメーターが接眼レンズに入っていない場合

- 1 ディスカッション装置のポインター明るさ調整つまみ **c** を、時計回りに回してポインター(⇩)を点灯させます。
- 2 ポインター色切り替えレバー **d** を下段位置(G)にします。このときポインターが視野内にはない場合は、ポインター操作レバー **e** で視野中央に移動させます。

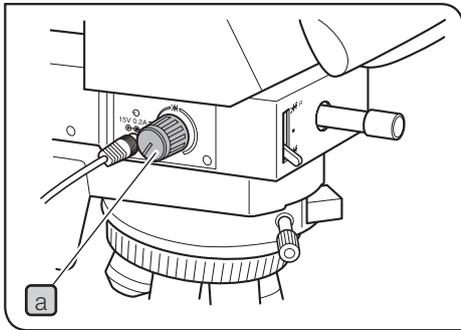


- 3 右側の接眼レンズの視度調整環 **f** を回し、ポインターにピントを合わせます。
- 4 左側の接眼スリーブの視度差調整環 **g** を回し、ポインターにピントを合わせます。
- 5 ポインター色切り替えレバー **d** を上段位置(R)にし、ポインターにピントが合っているか確認します。ピントが合っていない場合は、**3**、**4** を上段位置(R)と下段位置(G)で繰り返し行い、赤色と緑色、どちらのポインターにもピントが合うようにします。
- 6 標本をセットし、顕微鏡の粗動/微動ハンドルを回して、標本にピントを合わせます。

## 2 副検鏡者の視度調整

「主検鏡者の視度調整」と同様の操作を行います。接眼マイクロメーターが接眼レンズに入っていない場合は、主検鏡者側で操作を行いポインター(⇩)を点灯させて、ピント合わせを行います。

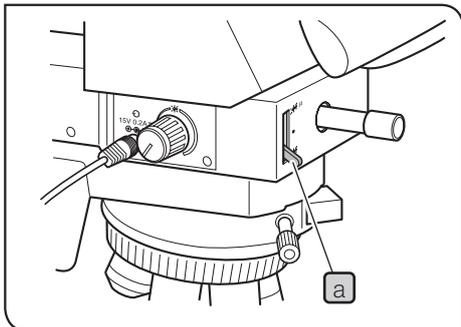
### 3-3 ポインターの使い方



#### 1 ポインターの明るさ調整

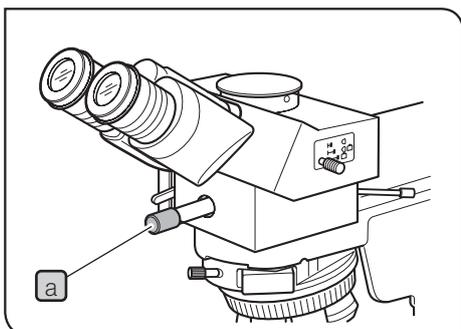
**参考** 本製品のポインターは、暗い標本（例：蛍光観察標本）にも対応できるように、明るさ調整範囲を設定しています。そのため、明るい標本（例：明視野観察標本）を観察するときに、明るさ調整つまみを最大まで回さないとポインターが見えてこないように感じる場合がありますが、故障ではありません。

- 1 ポインターの明るさ調整つまみ **a** を時計回りに回すと、ポインターが連続的に明るくなります。
- 2 明るさ調整つまみ **a** を反時計回りに止まる位置まで回すと、ポインターが消灯します。



#### 2 ポインターの色選択

- 1 ポインター色切り替えレバー **a** で、観察像の色に対して見やすいポインターの色を選択します。
  - 上段位置：赤
  - 中段位置：遮光
  - 下段位置：緑



#### 3 ポインターの移動

- 1 主検鏡者がディスカッション装置正面のポインター操作レバー **a** を動かし、視野内の任意の位置にポインターを移動させます。

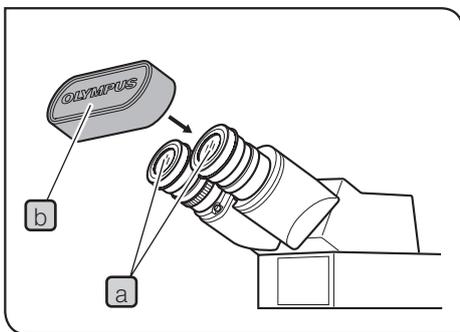
**参考** ポインターを使用しない時は消灯してください。（消灯方法は、「ポインターの明るさ調整」の **2** をご参照ください。）

観察中に、一時的にポインターを視野内に表示させないようにするには、ポインターを視野外へ移動させるか、またはポインター色切り替えレバーを中段位置に設定してください。

### 3-4 画像取り込み時のご注意

ここではディスカッション装置を組み合わせた画像取り込みの注意事項について説明します。

- ・カメラを組み合わせる場合は、主検鏡者位置に三眼鏡筒を取り付け、カメラアダプターを介してカメラを取り付けてください。
- ・ポインターが測光範囲内にある場合は、画像取り込み時の露出時間に影響を与える場合があります。ご使用のカメラの取扱説明書をご参照いただき、適切な露出時間を設定してください。
- ・副検鏡者の接眼レンズに迷光防止カバーをかぶせていない場合、接眼レンズより入射した迷光が画像に写り込む場合があります。画像取り込み時は、副検鏡者の接眼レンズ **a** に、迷光防止カバー **b** をかぶせてください。



**参考** 標本にポインター(弁)を映した状態の画像を撮ることもできます。

# 4 仕様

項目	仕様
観察可能人数	2名(対向型)、2名(並列型)、5名、9名、10名、13名
鏡筒倍率	1×
観察像の向き	同じ種類の鏡筒を使った場合、全検鏡者の観察像の向きは同一。 ただし、10人用システムのみ4名が90°回転した観察像となる。
最大視野数	22
ポインターの色	3段切り替え(上段：赤、中段：遮光、下段：緑)
ポインターの移動操作	ジョイスティック方式 (対向型2人用システムのみ主・副検鏡者の両方で操作可能)
ポインター電源	ACアダプター方式 定格 入力：100-240V ~ 50-60Hz 1.2A(最大) 出力：15V $\equiv$ 3.34A ポインター本体 入力：15V $\equiv$ 0.2A
ポインターの寿命	寿命：設計値で5000時間以上
使用環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内使用</li> <li>・高度 2000mまで</li> <li>・温度 5~40℃</li> <li>・湿度 最大80% (31℃まで) (結露なきこと)</li> <li>31℃以上では使用可能な湿度が直線的に下がり、34℃(70%) ~ 37℃(60%) ~ 40℃(50%)となる。</li> <li>・電源電圧変動 <math>\pm</math>10%</li> <li>・汚染度 2 (IEC60664-1による)</li> <li>・設置カテゴリ (過電圧カテゴリ) II (IEC60664-1による)</li> </ul>

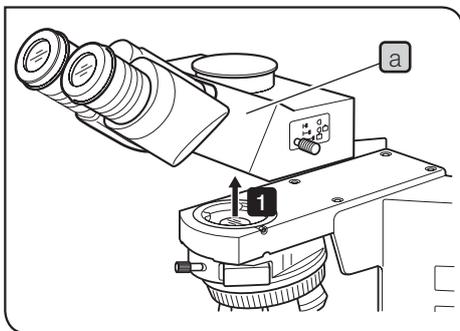
# 5 組み立て方

当社の意図する性能を発揮させるため、システムの組み立ては販売店へご依頼頂くことをおすすめします。

ディスカッションシステムの各ユニットは、「1 各ディスカッションシステムの構成と観察像の向き」(P.4)に従って配置してください。

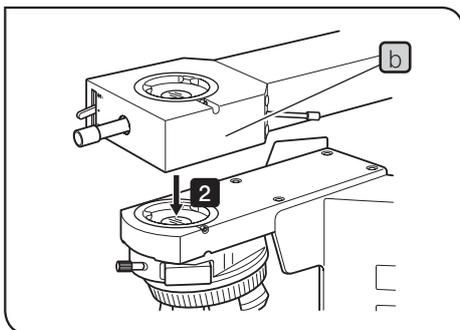
**注記** ディスカッションシステムの各ユニットは、できるだけ同じ高さの机の上に設置してください。

## 5-1 対向型2人用システムの場合

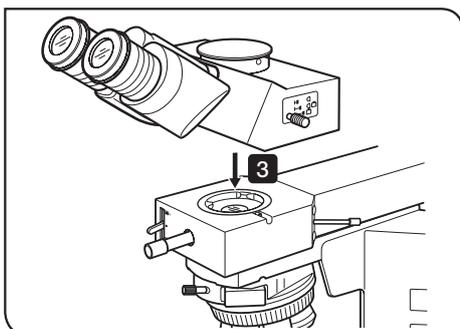


### 1 ディスカッション鏡筒本体部の取り付け

1 顕微鏡の鏡筒 **a** を取り外します。

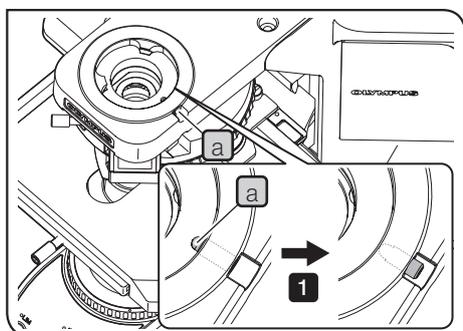


2 顕微鏡本体に、ディスカッション鏡筒本体部 **b** を取り付けます。



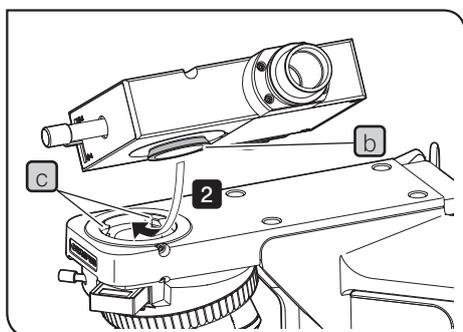
3 **1** で外した鏡筒を、ディスカッション鏡筒本体部の上に取り付けます。

## 5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合

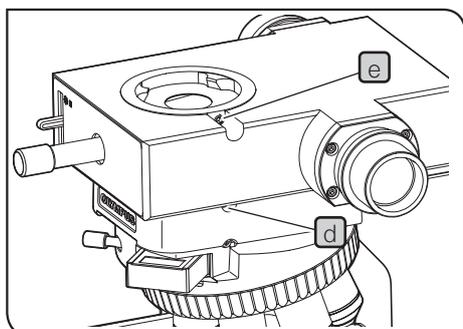


### 1 ディスカッション鏡筒本体部の取り付け

- 1 顕微鏡の透過アーム(BX3-ARM)の固定ねじ**a**を真上から見えなくなるまで(指で触って出っ張りが無い程度に)ゆるめます。

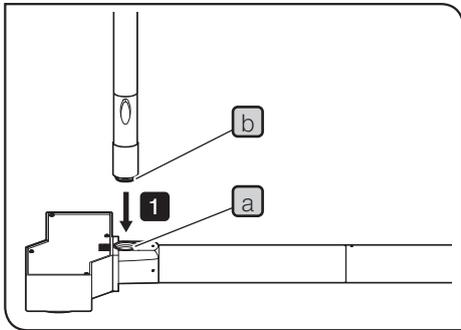


- 2 ディスカッション鏡筒本体部の丸アリ**b**を顕微鏡の透過アームの取り付け部にある2カ所の突起**c**の下側にもぐり込ませるように挿入します。



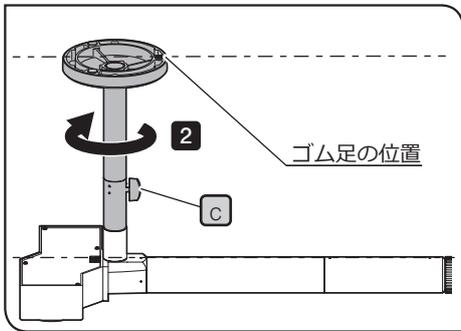
- 3 透過アームの固定ねじ**d**を締め付けて固定します。

参考 ディスカッション鏡筒本体部は、顕微鏡の透過アームの固定ねじ**d**とディスカッション鏡筒本体部の固定ねじ**e**が、垂直方向に一直線になるように取り付けてください。

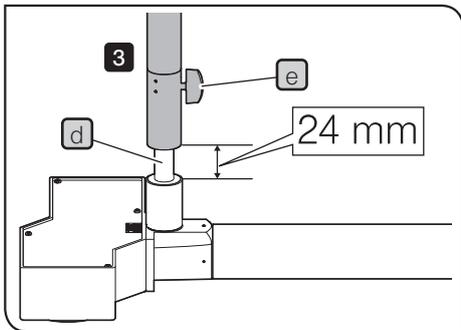


## 2 スタンドの取り付け

- 1 机の上に側視部の上下を逆さまに置き、側視部の取り付けねじ穴 **a** に、スタンドの **b** の部分をねじ込みます。

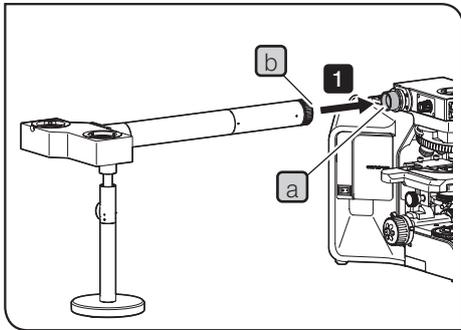


- 2 スタンド上下動固定つまみ **c** をゆるめ、左図の **■** 部分を回し、スタンドの台座裏側に付いている3つのゴム足の内の1つが側視部の筒の直線上に向くようにします。



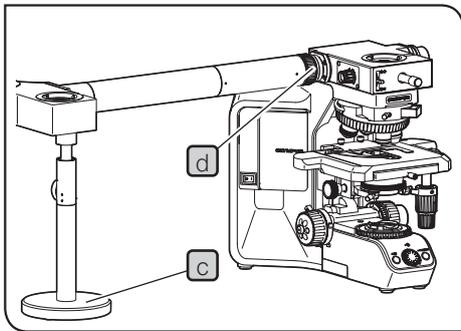
- 3 スタンドの **d** の部分が24mmになるように、左図の **■** 部分を上下させて調整し、スタンド上下動固定つまみ **e** を締め付けます。

**参考** 顕微鏡本体を設置した机上面と、側視部を設置する机上面に高低差がある場合には、スタンドの **d** の部分の長さを調整してください。例えば、高低差が5mm (顕微鏡本体の机上面が側視部の机上面より高い) 場合には、**d** は29mmとなります。



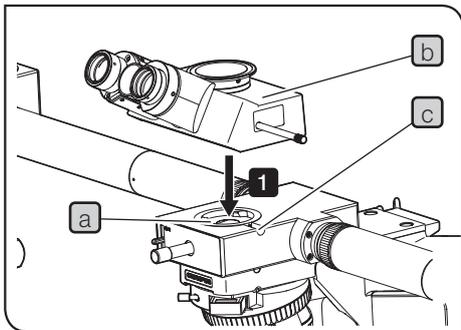
### 3 側視部の取り付け

- 1 ディスカッション鏡筒本体部 **a** に付いているキャップと、側視部の取り付け部 **b** に付いているキャップを取り外します。
- 2 スタンドを取り付けた側視部の上下を元に戻し、側視部の **b** をディスカッション鏡筒本体部 **a** にしっかりと奥まで差し込みます。



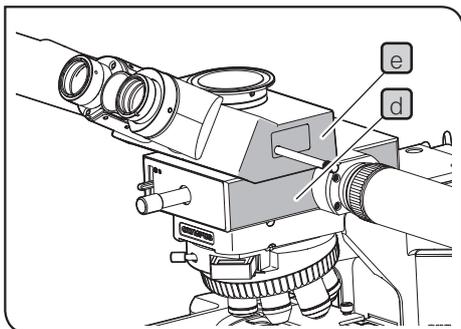
- 3 スタンドの台座 **c** をしっかりと手で押さえながら、取り付け環 **d** を回して、ディスカッション鏡筒本体部と、側視部を固定します。

**注記** 取り付け環 **d** を回し終わったら、机へのスタンドの設置が安定していることを確認してください。スタンドの台座と机の隙間に紙を入れて、紙が3つのゴム足に当たれば、安定しています。1カ所でも紙がゴム足に当たらない場合には、**3** をやり直してください。

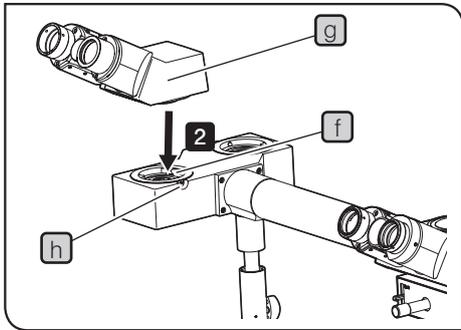


### 4 鏡筒の取り付け

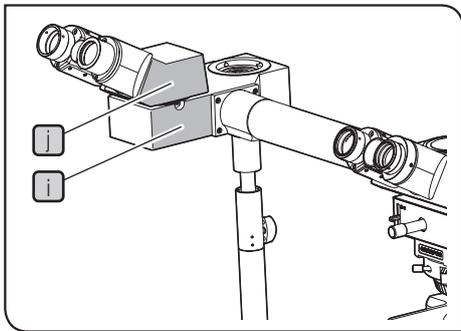
- 1 主検鏡者側のディスカッション鏡筒本体部の鏡筒取り付け座 **a** に、主検鏡者用の鏡筒 **b** を取り付け、固定ねじ **c** を締め付けて固定します。



**参考** 鏡筒は、ディスカッション鏡筒本体部の側面 **d** と鏡筒の側面 **e** が平行になるように取り付けてください。正しい向きで取り付けられていない鏡筒では、主検鏡者と見えている観察像の向きが変わります。(観察像の向きについては、「1 各ディスカッションシステムの構成と観察像の向き」(P.4)をご参照ください。)



**2** 側視部の鏡筒取り付け座**f**に、副検鏡者用の鏡筒**g**を取り付け、固定ねじ**h**を締め付けて固定します。

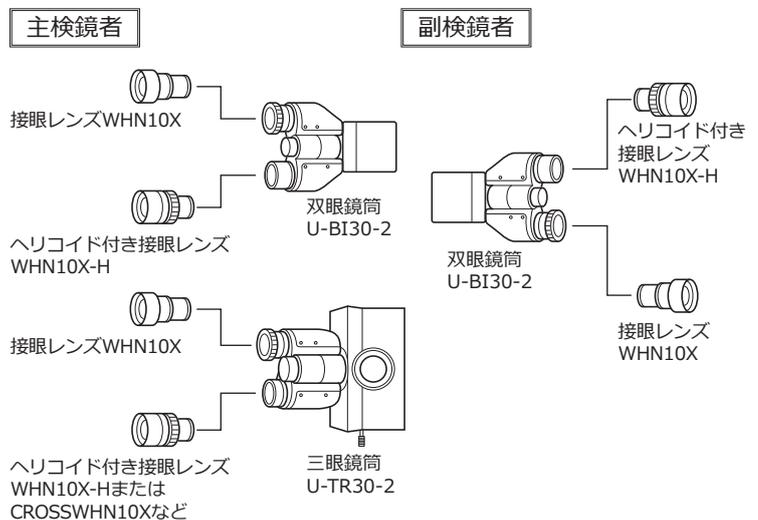


**参考** 鏡筒は、側視部の側面**i**と鏡筒の側面**j**が平行になるように取り付けてください。

## 5 接眼レンズの取り付け

接眼レンズの取り付けは通常の顕微鏡の場合と同様です。

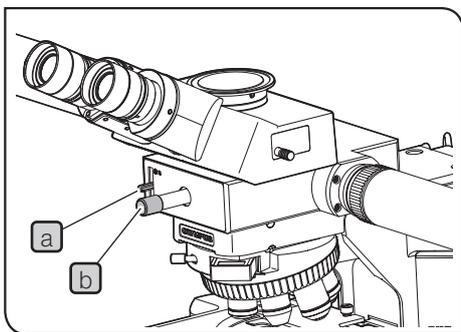
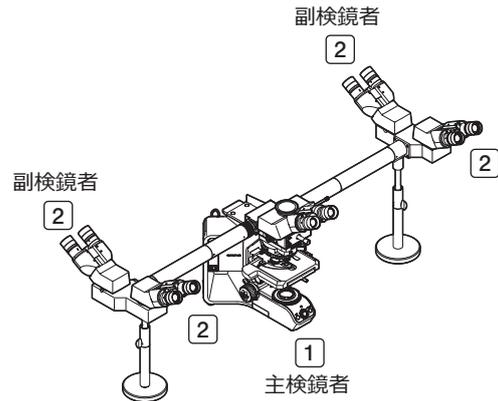
**参考** 主検鏡者、副検鏡者共に、両眼に視度調整機構が付いた状態になるように鏡筒と接眼レンズを組み合わせてください。



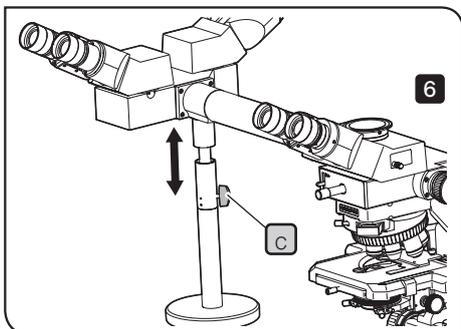
## 6 スタンドの高さの調整

### 調整順序

以下の順にスタンドの高さを調整します。



- 1 ①の主検鏡者側の接眼レンズをのぞき、ポインター色切り替えレバー **a** で、ポインターを表示します。ポインター操作レバー **b** を動かし、視野内の中央にポインターを移動します。(ポインター色切り替えレバーおよびポインター操作レバーの操作方法の詳細については、「3-3 ポインターの使い方」(P.12)をご参照ください。)



- 2 ②の副検鏡者側の接眼レンズをのぞき、表示されているポインターの位置に偏りがある場合は、スタンドの上下動固定つまみ **c** で、スタンドの高さを調整し、ポインターが視野内の中央にくるように調整します。

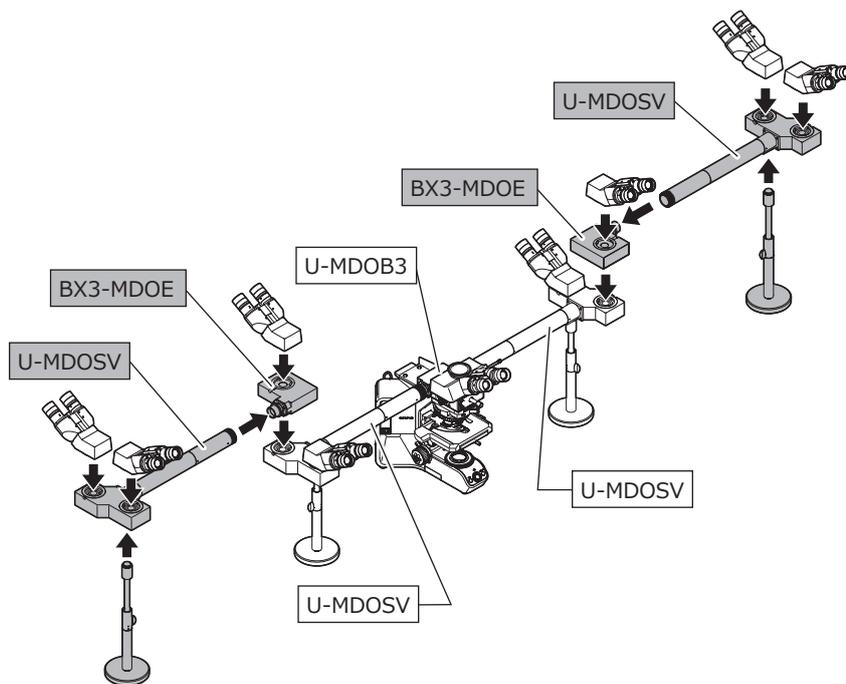
**参考** スタンドの高さ調整は必ず行ってください。  
高さ調整を行わないと、以下のような状況が発生することがあります。

- ・副検鏡者の視野周辺にかげりが生じる。
- ・主検鏡者と副検鏡者の視野にずれが生じる。
- ・副検鏡者の視野に色付きが発生する。

**注記** システムの中央から離れるほど、鏡筒に力をかけたときのシステム全体にかかる力が大きくなるので、不用意に力をかけないようにご注意ください。

## 5-3 9人用システムの場合

以下の図の□(白い)部分の組み立て手順(1~3、7~9)は「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」と同じ手順になります。■(グレー)部分の組み立て手順(4~6)が、9人用システムのみで必要な手順です。



### 1 U-MDOB3 の取り付け

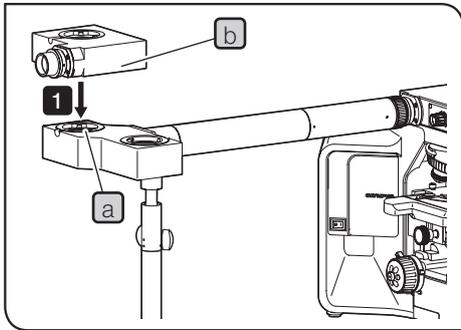
「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「ディスプレイ鏡筒本体部の取り付け」(P.16)をご参照ください。

### 2 スタンドの取り付け

「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「スタンドの取り付け」(P.17)をご参照ください。

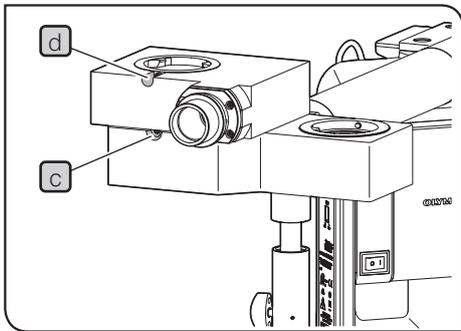
### 3 U-MDOSV の取り付け

「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「側視部の取り付け」(P.18)をご参照ください。

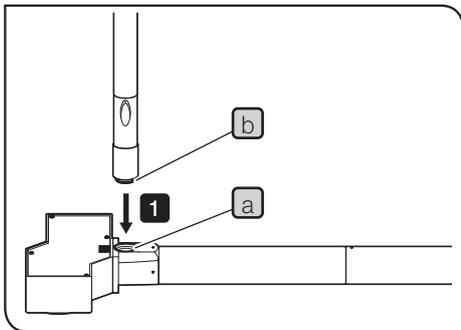


#### 4 BX3-MDOE の取り付け

1 U-MDOSVの鏡筒取り付け座**a**にBX3-MDOE**b**を取り付けます。

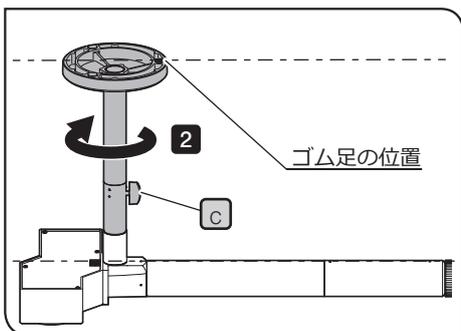


2 固定ねじ**c**を締め付けてBX3-MDOEをU-MDOSVに固定します。U-MDOSVの固定ねじ**c**とBX3-MDOEの固定ねじ**d**が、垂直方向に一直線になるように取り付けてください。

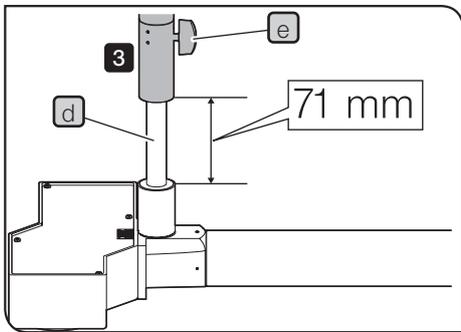


#### 5 スタンドの取り付け

1 机の上にU-MDOSVの上下を逆さまに置き、U-MDOSVの取り付けねじ穴**a**に、スタンドの**b**の部分からねじ込みます。

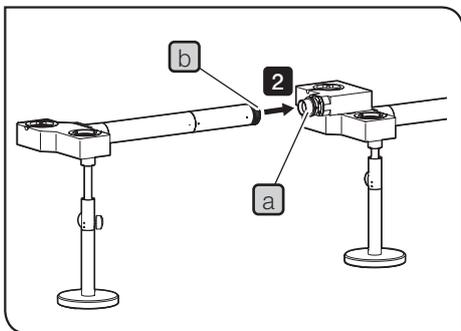


2 スタンド上下動固定つまみ**c**をゆるめ、左図の■部分を回し、スタンドの台座裏側に付いている3つのゴム足の内の1つがU-MDOSVの筒の直線上に向くようにします。



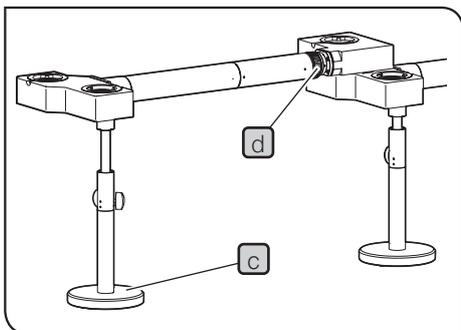
- 3** スタンドの**d**の部分が71mmになるように、左図の      部分を上下させて調整し、スタンド上下動固定つまみ**e**を締め付けます。

**参考** 顕微鏡本体を設置した机上面と、U-MDOSVを設置する机上面に高低差がある場合には、スタンドの**d**の部分の長さを調整してください。例えば、高低差が5mm (顕微鏡本体の机上面がU-MDOSVの机上面より高い) 場合には、**d**は76mmとなります。



## 6 U-MDOSV の取り付け

- 1** BX3-MDOEの取り付け部**a**に付いているキャップと、U-MDOSVの取り付け部**b**に付いているキャップとを取り外します。
- 2** スタンドを取り付けたU-MDOSVの上下を元に戻し、U-MDOSVの**b**をBX3-MDOEの取り付け部**a**にしっかりと奥まで差し込みます。



- 3** スタンドの台座**c**をしっかりと手で押さえながら、取り付け環**d**を回して、BX3-MDOEとU-MDOSVを固定します。

**注記** 取り付け環**d**を回し終えたら、机へのスタンドの設置が安定していることを確認してください。スタンドの台座と机の隙間に紙を入れて、紙が3つのゴム足に当たれば、安定しています。1カ所でも紙がゴム足に当たらない場合には、**3**をやり直してください。

## 7 鏡筒の取り付け

「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「鏡筒の取り付け」(P.18)をご参照ください。

## 8 接眼レンズの取り付け

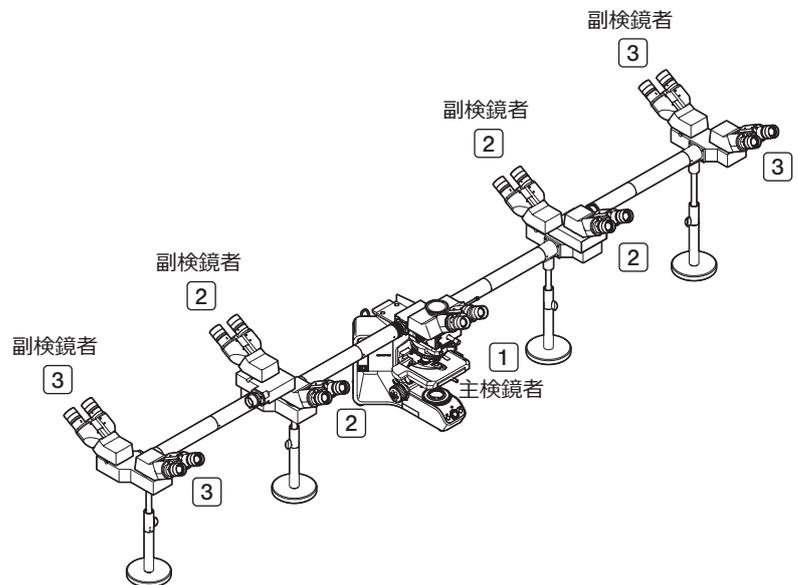
「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「接眼レンズの取り付け」(P.19)をご参照ください。

## 9 スタンドの高さの調整

### 調整順序

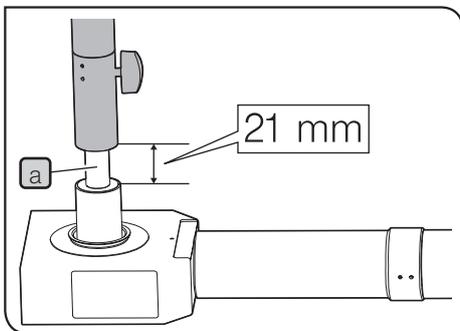
以下の順にスタンドの高さを調整します。

調整方法については、「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「スタンドの高さの調整」(P.20)をご参照ください。



## 5-4 10人用システムの場合

**参考** このシステムの組み立ておよび使用には、大きな机 (横1250~1400mm×縦1100~1250mm) が必要となりますので、ご準備ください。



### 1 スタンドの取り付け

スタンドの **a** の部分の高さ

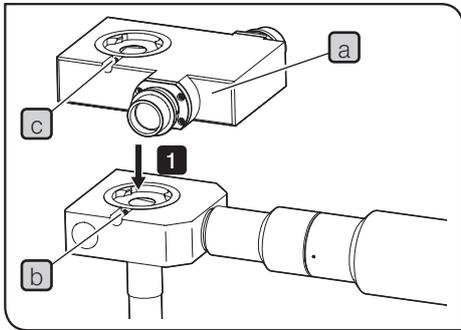
スタンドをU-MDO10R3にねじ込んだ後に調整するスタンドの **a** の部分の高さは、21mmとなります。

取り付け方法については、「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「スタンドの取り付け」(P.17)をご参照ください。

### 2 U-MDO10R3 の取り付け

顕微鏡本体にU-MDO10R3を取り付けます。

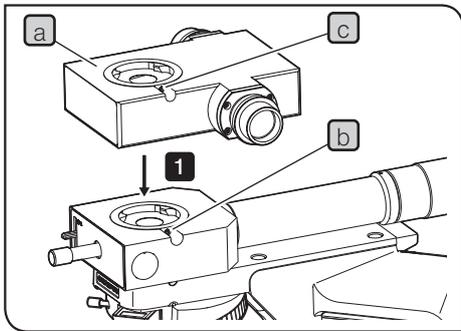
取り付け方法については、「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「ディスカッション鏡筒本体部の取り付け」(P.16)をご参照ください。



### 3 光路分割ユニットの取り付け

- 1 U-MDO10R-3の上(副検鏡者側)に、U-MDO10R-3に付属の光路分割ユニット(a)を取り付け、固定ねじ(b)を締め付けて固定します。

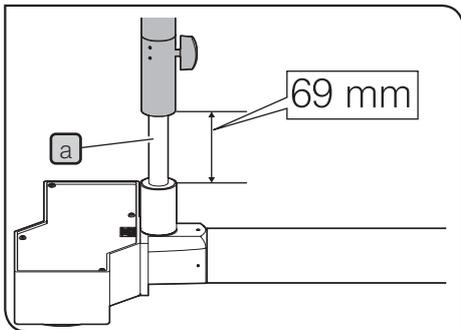
**参考** 光路分割ユニット(a)は、U-MDO10R-3の固定ねじ(b)と光路分割ユニットの固定ねじ(c)が、垂直方向に一直線になるように取り付けてください。



### 4 U-MDO10B3 の取り付け

- 1 U-MDO10R-3の上(主検鏡者側)に、U-MDO10B3(a)を取り付け、固定ねじ(b)を締め付けて固定します。

**参考** U-MDO10B3(a)は、U-MDO10R-3の固定ねじ(b)とU-MDO10B3の固定ねじ(c)が、垂直方向に一直線になるように取り付けてください。



### 5 スタンドの取り付け

スタンドの(a)の部分の高さ

スタンドをU-MDOSVにねじ込んだ後に調整するスタンドの(a)の部分の高さは、69mmとなります。

**参考** 顕微鏡本体を設置した机上面と、U-MDOSVを設置する机上面に高低差がある場合には、スタンドの(a)の部分の長さを調整してください。例えば、高低差が5mm(顕微鏡本体の机上面がU-MDOSVを設置する机上面より高い)場合には、(a)は74mmとなります。

取り付け方法については、「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「スタンドの取り付け」(P.17)をご参照ください。

### 6 U-MDOSV の取り付け

「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「側視部の取り付け」(P.18)をご参照ください。

## 7 鏡筒の取り付け

「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「鏡筒の取り付け」(P.18)をご参照ください。

## 8 接眼レンズの取り付け

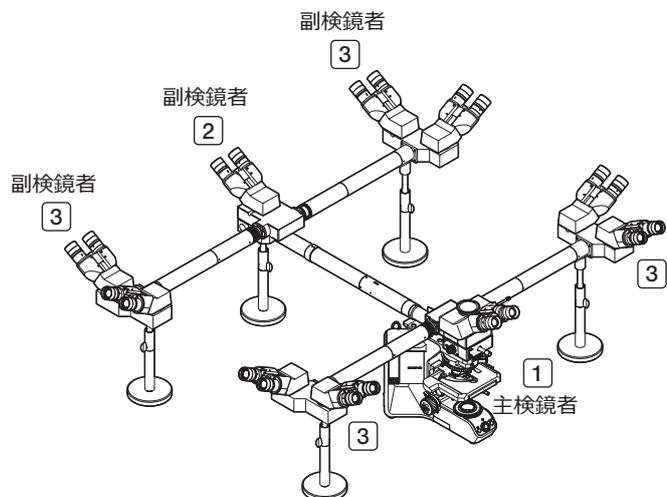
「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「接眼レンズの取り付け」(P.19)をご参照ください。

## 9 スタンドの高さの調整

### 調整順序

以下の順にスタンドの高さを調整します。

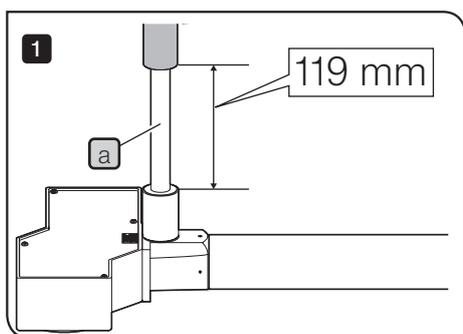
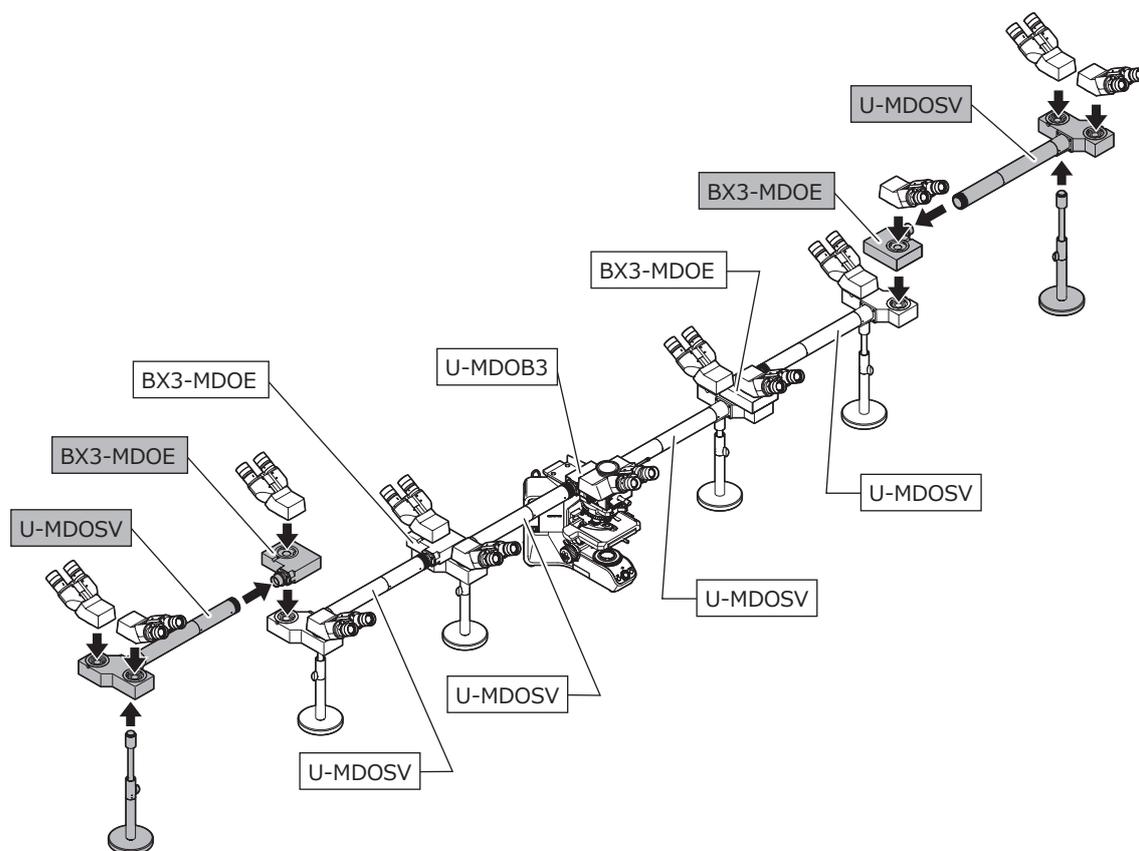
調整方法については、「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」の「スタンドの高さの調整」(P.20)をご参照ください。



## 5-5 13人用システムへの拡張について

以下の図の■(グレー)部分は、BX3-MDOEとU-MDOSVです。2カ所にBX3-MDOEとU-MDOSVを取り付けることで、9人用システムを13人用システムへ拡張できます。

組み立て手順は「5-2 並列型2人用システム、5人用システムの場合」(P.16)および「5-3 9人用システムの場合」(P.21)をご参照ください。ただし、図の■(グレー)部分のU-MDOSVに取り付けるスタンドは、以下の高さに調整してください。



スタンドのaの部分の高さ

**1** スタンドのaの部分の高さを119mmにします。

**参考** 顕微鏡本体を設置した机上面と、13人用システムへの拡張に用いるU-MDOSVを設置する机上面に高低差がある場合には、スタンドのaの部分の長さを調整してください。例えば、高低差が5mm(顕微鏡本体の机上面が13人用システムへの拡張に用いるU-MDOSV(延長部)の机上面より高い)場合には、aは124mmとなります。

## 5-6 その他の取り付け

ここでは、すべてのシステムに共通のユニットの取り付けや、オプションユニットの取り付けについて説明します。

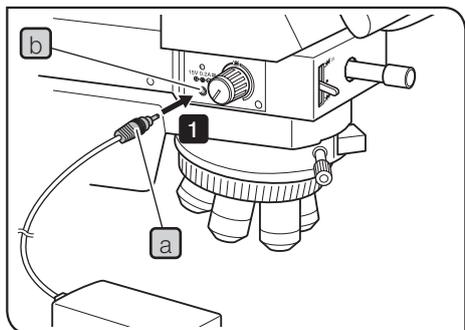
### 1 ACアダプターの取り付け

**⚠ 注意** ・ACアダプターおよび電源コードは当社提供のものを必ずご使用ください。正しいACアダプターおよび電源コードを使用しないと製品の電気安全およびEMC（Electro-Magnetic Compatibility = 電磁両立性）性能を保証できません。

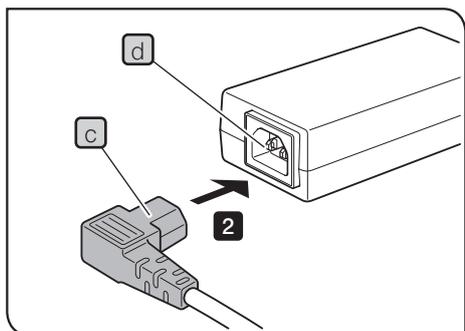
・電源コードプラグは、アース付き3芯コンセントに接続してください。コンセントのアースが未接続の場合は、当社の意図する電気安全性能が発揮できません。

**注記** ・ポインター明るさ調整つまみを反時計回りに回してOFF位置にしてから、ACアダプターを取り付けてください。

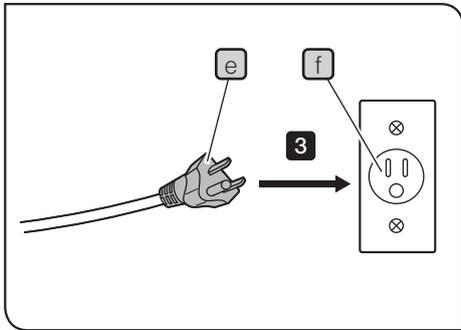
・コード類は曲げやねじれに弱いので、過度な力を与えないようご注意ください。



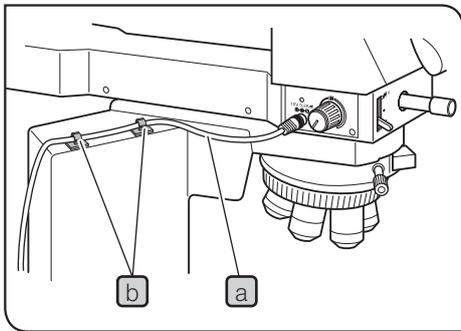
**1** ACアダプターの出力プラグ **a** をディスカッション鏡筒本体部の左側面のACアダプター入力コネクタ **b** に確実に挿入します。



**2** 電源コードのコネクタ **c** をACアダプターの入力コネクタ **d** へ挿入します。

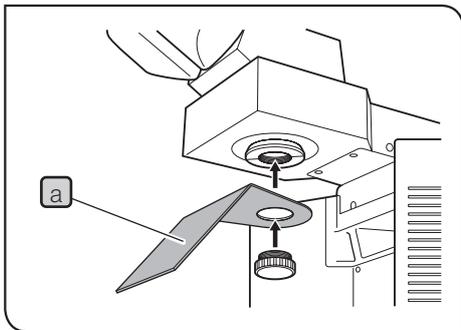


**3** 電源コードプラグ[e]を電源コンセント[f]に差し込みます。



## 2 コード止めの設置

ACアダプターのコード[a]が検鏡の邪魔にならないようにするのと共にランプハウスに触れないよう、付属のコード止め[b](2個)の裏紙をはがして貼り付けてください。貼り付ける場所は、あらかじめ無水アルコールなどで清掃してください。



## 3 遮熱板(オプション)の取り付け

対向型2人用システムの場合、ランプハウスからの熱が検鏡の妨げになるときは、オプションの遮熱板(BH2-DO-HPS)を取り付けてください。

**1** ディスカッション鏡筒本体部(U-DO3)の副検鏡者側下側のねじ穴に遮熱板[a]を取り付けます。

**参考** このねじ穴は、スタンドを取り付けるときにも使用します。



この製品は 2022 年 4 月 1 日より **株式会社エビデント** が製造をおこないます。  
この製品についてご不明な点は、下記のお客様相談センターまたはウェブサイトを通してお問い合わせいただくか、購入された販売店にお問い合わせください。

## 株式会社エビデント



 **0120-58-0414** 受付時間 平日 9:00~17:00

※携帯・PHSからご利用になれます。

E-mail: [ot-cic-microscope@olympus.com](mailto:ot-cic-microscope@olympus.com)

(ライフサイエンスソリューション)

**お問い合わせ**

<https://www.olympus-lifescience.com/support/service/>



(ライフサイエンスソリューション)

**当社ウェブサイト**

<https://www.olympus-lifescience.com>



(産業ソリューション)

**お問い合わせ**

<https://www.olympus-ims.com/service-and-support/service-centers/>



(産業ソリューション)

**当社ウェブサイト**

<https://www.olympus-ims.com>

